

都、大規模道路を認可

新経産 10/1

下北沢開発 用地買収難航も

世田谷区の小田急線下北沢駅周辺の開発問題で、都は18日、世田谷区から申請されていた道路建設などの事業を認可した。これを受け、区は用地買収交渉などに着手する。だが、街並みを壊すとして事業に反対する住民も多く、交渉は難航しそつた。

の地区計画を決める区都市計画審議会（東郷尚武会長）も開かれ、区の原案通りの計画案が承認された。

00平方メートル以上の建物は一定の条件の下、最高60メートル（17階程度）の高さまで認められる。

道路建設によって開発が予想される同地区に高さ制限などを設けるのが狙いで、敷地面積が20

同地区は路地が入り組んでいるため、低層の住宅が多いが、道路事業の認可と地区計画の承認により、将来、街並みが一

認可されたのは、下北沢駅の北側に最大幅26メートルの道路をつくる「補助54号線」と、約5400平方メートルの駅前広場整備を含む「区画10号線」事業。総事業費は約140億円。早ければ平成22年度中に着工し、26年度中の完成を目指す。

この日は下北沢駅周辺

柑橘株アスキー

088-21-1155

変するのは確実だ。

事業計画に反対する

「Save the 下

北沢」共同代表の小平憲

治さんは「区は計画の進

め方が強引すぎる。下北

沢の情緒を愛する住民は

多く、用地買収交渉は進

まないのではないかと。ご

たごたの中で下北沢のイ

メージ悪化が心配だ」と

話している。

区が賛成誘導？

審議会一時紛糾

18日開かれた世田谷区

の区都市計画審議会で、

区が一部住民に対し計画

案への賛成意見を促した

疑いがあるとの批判が出

され、審議会が一時紛糾

した。東郷会長も「区は

行政の中立性、公平性に

誤解を招くような行動を

すべきでない」と苦言を

呈している。

関係者によると、区

は、計画案への賛否両論

の意見が集まる縦覧期間

中、複数の住民団体代表

らに、賛成意見の書き方

の「見本」を記したメモ

を渡したという。区は

「計画案に賛成の人に求

められたため、賛成意

見を促したわけではな

い」としている。